

3. 地域福祉に関する地区懇談会

(1) 各地域での懇談会の実施

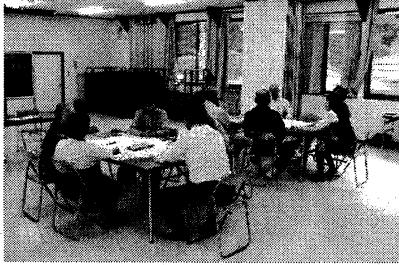
かつらぎ町地域福祉計画の策定にあたり、住民から直接生の声を伺うとともに、地域福祉の担い手となる住民自身が、主体的に自分が住んでいる地域の「良いところ」と「今後良くしたいところ」について考え、発表・共有し合うことで、かつらぎ町の地域福祉に参加していくきっかけとするために、地区懇談会を実施しました。

地区懇談会は、各地区につき1回ずつ開催し、住民と策定委員、事務局からなる5～10名程度のグループでの話し合いと意見の交換、発表などを行いました。地区懇談会の中では、住民と行政、社会福祉協議会が率直な意見を交わし合い、「共助」のための関係づくりの場にもなりました。

地区名	日時	場所
花園地区	平成30年10月25日 14:00～15:30	花園集会所
中飯降地区	平成30年10月29日 19:00～21:30	中飯降児童館
渋田地区	平成30年10月31日 19:00～21:00	見好公民館
丁ノ町・新田・妙寺・ 短野地区	平成30年11月13日 19:00～21:00	妙寺公民館
三谷地区	平成30年11月6日 19:00～21:30	旧三谷小学校
笠田地区	平成30年11月8日 19:00～20:30	笠田ふるさと交流館
志賀・天野・新城地区	平成30年11月13日 13:30～15:30	天野地域交流センター
大谷地区	平成30年11月15日 19:00～21:00	大谷公民館
四邑地区	平成30年12月7日 19:00～20:30	四邑公民館
四郷地区	平成31年1月19日 19:00～20:30	四郷地域交流センター

(2) 地域ごとの主な意見

■花園地区



助け合いが当たり前。
人が増える活気のあるまちに
したい!

○地域の良いつながり

近所は家族同様で、見守りや助け合いはあたりまえ。

隣近所でよく話し合い、知らんぷりが無い。コミュニケーションが良くとれている。

行事の時に、寄せ鍋をみんなで作って飲んだりする。

近所の集まりで、月に一回、誕生会をしている。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

紀北筋の病院へ送迎してほしい。

移動スーパーが来てくれるが、山間部になればなるほど、品物がなくなる。

お店・電気屋がない

空き家が多い

元々の技術を生かして助け合う

移住者を増やす若者を増やす

■中飯降地区



長生きしたけりゃ 中飯降へ!
119番通報ですぐ来てくれ、歩いて買い物にも行ける。元気な高齢者が多い。大人も子どもも見守る地域。

○地域の良いつながり

元気な高齢者が多く、子どもの登下校時の見守りをしている。

中飯降駅前広場で、高齢者が主体で直売所・朝どり市を開設している。

紀北農芸高校と自治区とのつながりがある。子ども会もハンドボール教室でつながっている。

グラウンドゴルフや餅つき大会、秋祭りなど、子どもから高齢者まで交流している。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

子どもや若者が少なく、地域力が低下している。若い世代の活躍が必要。

1人住まいの高齢者が多くなり、新しく住まれた方との関係が薄い。

生活道路が狭く救急車が入らない。開発がしにくい。コミュニティバスが通っていない。

社会的基盤の歴史が古い地区だ。調査し、まちづくりに生かせないか。

■ 洪田地区



災害の避難時に、各自荷物を持参しないといけない状況を改善するため、役場の協力を得て、委員会設置を考えてはどうか。

○地域の良いつながり

隣近所や高齢者の方を見かけたら声をかけている。明るい人が多く、話がしやすい。

下の名前で呼び合う身近な距離観で助け合いができています。

町内会単位の組織力が高く、一体感がある。町内会の人が通っている病院も分かっている。

農家が多くて、元気な高齢者が多い。季節ごとに果物などのおすそ分けがある。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

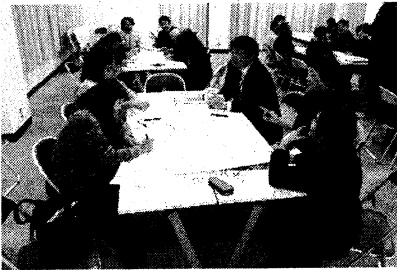
高齢世帯やひとり暮らしが増え、町内会や地域の役員が負担になってきている。

病院が遠く、スーパー・商店も遠い。車に乗らない人が困っている。

家に閉じこもることが多く一人暮らしで不安。老人会の解散で集う場がなくなった。

住民意識が多様化し、「みんなのために」の気持が薄れてきている。

■ 丁ノ町・新田・妙寺・短野地区



旧街道は空き家が多くなり、段々寂しくなってきた。「ふるさと」と発信できるものがあれば、子どもたちも戻ってくるのでは…。

○地域の良いつながり

自然が豊かで空気もよく、おいしい果物が食べられる。地理的条件が良く住みよい地域。

昔から住んでいる人が多くお互いをよく知っている。アパートに住む人とのつながりは薄い。

高齢化が進む中、案外助け合いができていますと思う。

子どもの見守りであいさつができています。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

かつらぎ公園に、もっと人が来てもらえるように工夫してほしい。

聴覚障害者は情報が入らず不安。京奈和自動車道の事故などの情報をメールしてほしい。

若者が希望する働く場所が少なく、若い人が住みにくい。

自治区を抜ける住民が増えつつある。

■三谷地区



買い物に困っている人が増えている。コミュニティバスに代わるタクシーなどの利用ができないものか。

○地域の良いつながり

ご近所の方から新鮮な野菜や季節の果物のおすそ分けをいただいています。

少し会わない日があると「元気？」と電話などをくださいます。

中番ゴルフコンペが自治区全体に広がった。

農家が高齢者が多い中で、助け合っています。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

耕作放棄地が多く、イノシシなどの被害が増えている。

ゴミの収集場所が少し遠いので困っています。

三谷橋の対向に困る。河南道路の交通量も多く、子どもの横断が危ない。

デイサービスが充実し、道端で話をしているお年寄りが少なくなった。

■笠田地区



公園やコミュニティセンターなど、活動の拠点はたくさんある。更に地域の絆を深めたい。自治区も頑張るが、行政も頑張ってもらいたい。

○地域の良いつながり

ゴミ出しの助け合いをしている。近所の庭の草とか木を整理する人もいてる。

子どもの登下校を、自然と見守っている。

ご近所のつながりが強い。災害時に助け合う方法を決めているところもある。

若い人も積極的に祭りに参加してくれた。若い世代が増えている地域もある。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

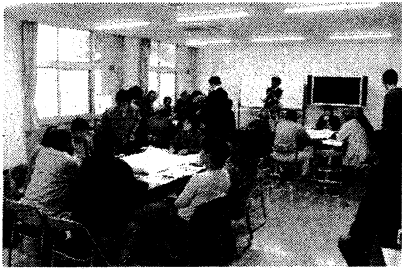
子どもの送り迎えに親が大変である。

府県間トンネルが抜けて交通の便利が良くなったことでデメリットも。事故や泥棒が…。

区費を払えず、仕方なく脱会する人もある。町内会の未加入者の対応に困っている。

ボランティアの参加者が減ってきている。

■志賀・天野・新城地区



行事など皆助け合ってまとまりがある。移住の取り組みで、子どもの数が増えてきた。

○地域の良いつながり

この子は、どこの家の子と皆が知っている。各サークル活動が若い人を中心に行われている。

里づくりの会が中心となっていて、竹パウダーや干しイモの加工グループができています。

助け合いの心が強い。気づくことがあれば、連絡して教えてくれる。

防災についての勉強会をしている。誰がどこで寝ているのかも知っている。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

買い物や通院・ゴミ出し、家の周りや畑の除草などに困っている。

観光客のマナーが悪い。ゴミのポイ捨てや騒音に困っている。

神社のイベントなど、知らないことも多い。インターネットがつながらない地域もある。

みんなが集まって飲める居酒屋がない。(お酒を飲むと車に乗れないため)

■大谷地区



大谷っ子フェスティバル。家族や地域の大人・子どもが接する場がある。

○地域の良いつながり

2か月に1回の常会で雑談し、近況を確認し合っている。

青年団や消防団ではなく、40代のメンバーを中心とした団体がある。

見守り隊と子どもとの対面式があり、お礼を言う場がある。

観光バスで人がたくさん来るようになった。町内をきれいにしようとゴミを拾っています。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

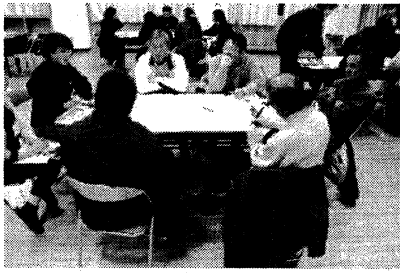
防災無線がないため、災害情報が入らない。講習会の開催が必要。役場も計画してほしい。

車がないと不便。高齢者が増える中、スーパーの巡回販売などを希望する。

道路の新設で治安や事故の不安がある。

耕作放棄地・荒地が多く、ハビ・毒ヘビが出た。

■四邑地区



農業の活性化が必要ではないか。
行政の後押しが欲しい。

○地域の良いつながり

互いに収穫したものを
おすそ分けをしている。

帰省する家族が参加で
きる祭りがある。

消防団も見守り活動
をしている。

台風の倒木で町道が
不通となった時、孤立
家庭の安否確認や買
い物の手助けを行った。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

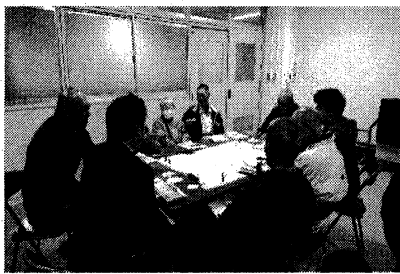
交通手段がなく大人も
子どもも不便を感じて
いる。こども園のバスに
高校生も乗れないか。

国道の交通量が多く、
事故が増えた。
雪が降った日も大変。

山間部では、介護サー
ビスが行き届いていな
い。希望する時間に来
てもらえない。

携帯電話が入りにくい
地域がある。

■四郷地区



近所の出来事や良いこと・悪いこと、
皆が知っていて、喜びも悲しみも共有
している。

○地域の良いつながり

日常の生活を気にして
見ている。
みんな、顔見知り。

地域ごとに「○○講」と
いう集まりがあって、地
域で密接なつながりが
ある。

四季の会で、木工体験
やピザづくりなど、移住
者の受け入れを行って
いる。

育児や介護も、ご近所
同士、助け合っている。

○生活するうえでの困りごと・望むこと

地域の役が多くて、なり
手がない。また、共同
作業の負担が大きい。

車がないと不便。
買い物や銀行に行くの
に困っている。

災害時の安全な避難
場所がない。

イノシシやカラス・アライ
グマなどが畑を荒らす。
猟銃育成をしては？

4. 計画策定における特徴と今後

かつらぎ町の現状及び住民アンケート調査結果、地区懇談会での住民からの意見より、本計画の施策を方向づけていきます。

かつらぎ町の現状

- 人口の減少 ⇒ 一人ひとりが地域福祉に参加する取り組み
 - 高齢化の進行 ⇒ 福祉の受け手が担い手にもなる取り組み
 - 転出数 ⇒ ずっと地域に残ってもらうための取り組み
 - 高齢世帯の増加
 - 要介護認定者数の増加
 - 要介護認定率の増加
- ⇒ 必要な福祉サービスをしっかりと提供する取り組み

住民アンケート調査

- 地域福祉に無関心な層の存在
 - 隣近所との良好な関係性
 - 老後の生活・健康などへの不安
 - 災害時の対応の重要性
 - 情報発信や相談窓口の充実へのニーズ
- ⇒ 互いに誘い合い、気軽に参加できる環境と意識づくり
- ⇒ 「健康」「高齢者の移動手段」「支え合い、助け合う活動」に関する事業の展開
- ⇒ 自助・互助共助・公助のバランスが取れた「防災」
- ⇒ 福祉サービスの利用につながる情報発信

地区懇談会

- 地域活動の衰退
 - 災害時に備えた住民の活動の必要性
 - 限られた地域の活動への参加者
 - 子ども・若者の減少
 - 近所付き合いの希薄化
 - 若い世代の活躍の場づくり
- ⇒ 関心が高く、必要とされやすい地区活動の強化
- ⇒ 住民が交流し合う機会をつくり、地域への理解と愛着を深める必要性

- 安心して暮らせるまち
- 一人ひとりがつながるまち
- 支え合い、助け合うまち